

## 船舶インシデント調査報告書

令和3年10月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（燃料不足）
発生日時	令和3年4月4日 13時38分ごろ
発生場所	長崎県佐世保市高島西方沖 牛ヶ首灯台から真方位292° 1.4海里付近 (概位 北緯33° 10.2′ 東経129° 33.3′)
インシデントの概要	プレジャーボートROCKは、帰航中、船外機が停止して運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和3年4月6日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート ROCK、5トン未満
船舶番号、船舶所有者等	290-15054長崎、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風力 3～4 海象：波高 約1.5m
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、家族1人及び知人3人を乗せ、時化<sup>しげ</sup>てきたので釣りを終えて帰航中、船外機が停止した。</p> <p>船長は、船外機各所を点検し、燃料タンクが空の状態になっているのを認め、燃料を給油しようとしたところ、予備の燃料を積み忘れていたことに気づき、118番通報を行った。</p> <p>本船は、来援した巡視艇の乗組員が給油後に船外機を始動し、自力で帰航した。</p> <p>船長は、出航時、燃料タンクの燃料が半分程度残っていることを確認し、これまで、同じ釣り場までの往復の航海で、燃料消費量が燃料タンクの3分の1程度であったので、給油せずに出航したものの、時化の中の帰航で燃料消費量が増えたのではないかと本インシデント後に思った。</p> <p>船長は、出航前、船外機のチルトダウン作業に手間取り、荷物の積み込み作業を船長の家族に任せていたところ、家族が、予備の燃料タンクの入った物入れを本船に積み込んでいなかったことを本インシデント後に聞いた。</p>
分析	<p>本船は、船長が、燃料タンクの半分程度の残量でも釣りを終えて帰航できると思って出航したところ、帰航中に燃料タンクが空になったことから、船外機が停止し、運航不能となったものと考えられる。</p> <p>本船は、海上が時化模様の中を帰航中、波の影響により普段より出</p>

	<p>力を上げて航行したことから、燃料消費量が増えて、燃料油を使い切ったものと考えられる。</p> <p>船長は、これまで同じ釣り場までの往復の航海で、本船の燃料消費量が燃料タンクの3分の1程度であったことから、燃料タンクの半分程度の残量でも釣りを終えて帰航できると思って出航したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本インシデントは、船長が、燃料タンクの半分程度の残量でも釣りを終えて帰航できると思って出航したところ、海上が時化模様となって帰航中、波の影響により普段より出力を上げて航行し、燃料消費量が増えて燃料油を使い切ったため、船外機が停止したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、出航時の燃料タンクには、満タンとして余裕を持った量の燃料を給油しておくこと。</li> <li>・ 船長は、航海に必要な荷物を積み込む場合、船長が、荷物の内容を把握し、かつ確認を行うこと。</li> </ul>